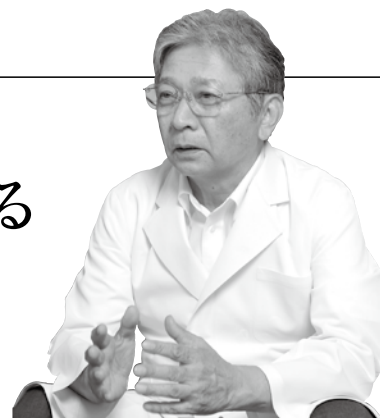


急激に変化する社会に対応できる 病院でありたい

病院長 西俣 寛人



現在、世界中で起こっている変化は、革命的で産業革命に匹敵するかそれを上回るほど大規模な激変で、それも過去に例のない速度で全世界的に変化し、その変化に対応できない組織は崩壊・消滅していく、と未来学者のアルビン・トフラーは述べています。

この急激な変化に対応するには、組織を水平にして適切な人材を組織して、目的を達成する方法を根本から見直すことが必要とも述べています。

日本の医療界はどう変化するのでしょうか。私は2つの大きな波があると考えています。“医療経済”と、“科学の進歩”による医療の変化です。

医療経済の面では、少子高齢化の流れの中で税収は減少し、介護福祉に税金の投入が多くなり、医療に使われる税金は減少傾向になることは避けられないと予想しています。依って、限られた医療費をいかに有効に使って質の良い医療を提供するか、知恵を出し合う必要があります。

また、もう1つの波は、科学の進歩にそって医療の質が急速に変化していくことです。消化管の癌を例にとれば、癌の初期病変の診断が可能になりつつあり、初期病変の多くが内視鏡で切除される時代になり患者さまのQOLが向上し、その結果、内視鏡切除の実績・治療成績のよい病院（実際は内視鏡切除する医師）に患者さまが集まるようになります。当院の消化器内科は、このグループの創設者である故 政先生の方針を伝統的に受け継ぎ、医学の進歩の方向を予測し、全国レベルの臨床研究を全員でおこなってきました。その結果、消化器内科医全員が専門医として、社会的に評価される医師に育っています。

この急激に変化する社会の波にうまく対応し、この2つの波をうまく収斂させて、大きな成果が得られるように、全員で努力する必要があると考えています。

社会の変化に、どのように、いつ、どのくらいのスピードで対応するかの判断が、リーダーの責任であると思います。タイミングはこの世で一番大切であると言われています。南風病院は、全科で年々紹介患者数が増加してきています。社会的に信頼され、地域に必要な病院に成長しているのだと感じています。職員全員が社会の変化に反応し、同じ方向を目指し、南風病院が健全に発展できるように努力していきたいと考えています。

Nanpouh Hospital